

## 【日本の大学】第84回—奈良女子大学：文・理4学部持つ古都の国立女子大

奈良女子大学は、1908年に女子教員の養成を目的として古都奈良に設置された奈良女子高等師範学校を母体として、第2次大戦後の1949年に国立の女子大学として発足した。教育目的としては、「女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の発展に寄与すること」（大学の学則）を挙げている。

本部・キャンパスは奈良県の県庁所在地奈良市にあり、「文学部」のほか、女子大学としては珍しい「理学部」、女子大学にしかない「生活環境学部」の3学部に加えて2022年4月からは、女子大学史上初の「工学部」を開設して、4学部の体制となっている。また、幼稚園児から大学院生まで、年齢層でいうと、3歳の園児から大学院の27歳までの25年間の教育システムを持っているのも大きな特徴である。



記念館。1994年12月27日に守衛室（附 正門）とともに国の重要文化財に指定され、一階は展示室、二階は講堂として活用している

以下、奈良女子大学のホームページなどをもとに、大学の歩みと現況を見ていこう。

日本初の女性のための官立高等教育機関である東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）に遅れること30年余、1907年の帝国議会で、第二女子高等師範学校をどこに置くか投票がなされ、京都と奈良が競い、1票差で奈良に設置されることが決まったという。

現在でも、国立の女子大学は2校だけであり、大都会東京にあるお茶の水女子大学に対して、古都奈良の世界遺産に囲まれた落ち着いた環境にあるのが奈良女子大学である。

1908年に設置された奈良女子高等師範学校は、女子師範学校、高等女学校の女子教員や幼稚園の保母の養成を行うことを目的に翌09年5月から授業を始めた。1911年には附属小学校と附属高等女学校が開校し、翌12年に附属幼稚園の保育が始まっている。奈良女高師は、予科（4か月）と本科（3年8か月、国語漢文部、地理歴史部、数物化学部、博物家事部）からなっていた。

その奈良女高師を包括して新制の奈良女子大学が設けられたのは1949年5月である。学部は文学部と理家政学部の2学部であった。文学部は社会学科、国語国文学科、英語英文学科、史学地理学科の4学科、理家政学部は数学科、物理学科、化学科、生物学科、家政学科の5学科からなっていた。1952年には文学部に教育学科が加わっている。

理家政学部は1953年8月に、理学部（数学科、物理学科、化学科、生物学科）と家政学部（食物学科、被服学科、住居保健学科）に分離した。



シカもキャンパスに遊びに来る

## 生活環境学部へ衣替え

大学院は 1965 年に理学研究科（修士課程）が置かれたのに続いて 68 年には文学研究科（修士課程）が設置されている。文学研究科の博士課程ができたのは 1980 年である。

各学部では、その後、学科の分離や改称、新学科の設置などが続いた。家政学部には生活経営学科が、理学部には情報科学科が置かれた。家政学部が生活環境学部（生活環境学科、人間環境学科）に衣替えしたのは 1993 年である。

文学部の 6 学科を 3 学科に改組（国際社会文化学科、言語文化学科、人間行動科学科）したのは 1995 年である。その後の改称、改変を経て現在、人文社会学科、言語文化学科、人間科学科の 3 学科となっている。人文社会学科には歴史学、地理学、社会学の 3 コース、言語文化学科には日本アジア言語文化学とヨーロッパ・アメリカ言語文化学の 2 コース、人間科学科には教育学・人間学、心理学の 2 コースが設けられている。

文学部の新生は全学共通科目や専門教育科目を学びながら、どの学科のどのコースで学ぶのかを考え、2 年次に進む前に 3 学科のどこに所属するかを決める。学科内のコースのいずれかに沿って学習計画を立てるが 2 年次の間はそのコースを変更することができる。3 年次に進む前に自分の進むコースを決め、4 年次の卒業論文へとつなげていく。ほとんどの授業科目は、コース限定ではなく、学科または学部全体に開かれている。広い視野を養いつつ、次第に自らのテーマを見つけ、専門性を深めていくことができるよう配慮されている。



キャンパス内の並木道

このほか文学部では、(1) 幼稚園・小学校教員養成のために、人間科学科のもとに「子ども教育専修プログラム」を設けている (2) 4 年 (学部) +2 年 (大学院博士前期課程) の 6 年間で切れ目なく柔軟に活用する一貫教育プログラムを設けている (3) 大学間、部局間学生交流協定に基づいて最長 1 年の交換留学が計画されている——などの特色を持っている。

理学部も何度か、組織改正や改称を実施してきた。当初の 4 学科から、1996 年には数学科、物理科学科、化学科、生物科学科、情報科学科の 5 学科に改組。2014 年には数物科学科と化学生命環境学科 (2 年後に化学生物環境学科に改称) に改編した。数物科学科の中には、数学、物理学、数物連携の 3 コースがあり、化学生物環境学科には、化学、生物科学、環境科学の 3 コースがある。大学院の博士前期課程も数物科学専攻、化学生物環境学専攻で、学部と同じ構成となっている。

生活環境学部の 2 学科 (生活環境学科、人間環境学科) のうち生活環境学科は 2005 年に食物栄養学科と生活環境・衣環境学科に改組、食物栄養学科の中に管理栄養士養成課程を設けた。人間環境学科は 2006 年に、住環境学科と生活文化学科に改編している。また 2014 年には生活環境・衣環境学科を心身健康学科と情報衣環境学科に改めている。さらに 2022 年には、情報衣環境学科と生活文化学科を改組して、新たに文化情報学科を設置している。

この結果、生活環境学部は、食物栄養、心身健康、住環境、文化情報の 4 学科となっている。学部では、生活の根幹である衣食住や家族の環境など様々な生活環境を教育研究の対象としている。各学科ともに学生数は 30~45 名ほどで、少人数教育が特徴である。学科・コースの専門性に関連した有益な資格を卒業時に取得できる。栄養士・管理栄養士、建築士、公認心理師、社会福祉主事といった資格を、卒業要件を満たす過程であわせて修めることができるカリキュラムが提供されている。



教員 1 人あたり 10 人前後の学生数!

## 女子大初の工学部

日本の女子大学として初めて工学部（工学科）が開設されたのは 2022 年 4 月である。情報化社会の特色として、AI を初めとするソフトウェアが工学に深く関与し始めており、20 世紀までの力の工学が、知の工学に変化したことで女性エンジニアが必要とされている、と工学部誕生の意義を説明している。

人間環境分野と環境デザイン分野からなる専門分野があり、自分にふさわしい学びとキャリア形成ができるように、入学後に自由に選択できるようにしている。女子大学という環境を活かして、包括的な知識と専門性を身につけた未来を拓くエンジニア・イノベーターを育成していく。

海外への留学、外国人留学生の受け入れなど国際的な協力・連携の推進、海外の大学との交流協定の締結促進などを行うため、大学では 2005 年に国際交流センターを設けている。国際交流協定を締結している大学はアジア、欧州を中心に 57 大学に上る。外国人留学生の受け入れでは、2019 年度は 19 か国から 260 名が在籍していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴って、2022 年 5 月現在では計 134 名となっている。



#### 就職・資格取得のためのサポート

大学の教員数は、202名（うち女性82名）。学生数は学部が2073名、大学院が516名（いずれも2022年5月現在）となっている。

大学は、2022年4月、奈良教育大学と法人統合し、奈良国立大学機構を発足させた。同機構傘下の大学としてスタートした。

奈良女子大学の現学長は、今岡春樹氏である。東京工業大学大学院総合理工学研究科システム科学専攻修士課程修了。工学博士。通商産業省（現経済産業省）主任研究員などを経て、奈良女子大学には1990年に家政学部助教授。2001年生活環境学部教授、2011年同学部長、2013年第11代学長に就任した。

日文：滝川 進

写真：奈良女子大学 HP